## 

福島の除染活動状況をお伝えします。

## 福島ユナイテッドFC



ユナイテッド応援席に湘南ベルマーレサポーターが参加し、一緒に応援した。

この6月30日に、福島ユナイテッドFCのホームゲームとして、佐川印刷SCとの試合が、 J1・湘南ベルマーレのホームスタジアム・Shonan BMWスタジアム平塚で行われました。この 試合は、福島ユナイテッドFCのホームゲームでありながら、ホームではないスタジアムで開催 された、日本サッカー史上初の試みでした。この試合では、福島県内外の避難者や福島ユナイ テッドFCのサポーターを招待し、福島県民を勇気づけるとともに、湘南ベルマーレのサポー ターとの交流を図ろうという、両チームの思いによって実現しました。

福島ユナイテッドFC代表の鈴木勇人氏は、「今回、私たちと業務提携した湘南ベルマーレの 協力で、平塚でのホームゲームを開催できました。また、福島県によるPRやバスツアーの支援 もあり、福島県内外で避難生活を送る県民や、ユナイテッドサポーターも招待できました」と 語りました。

この日の会場では、 "がんばろう福島ブース"と題して福島の物産PRと情報を発信する八 店舗が出展しました。そのひとつが除染情報プラザの移動展示で、最新の除染状況を伝えると ともに、福島への応援メッセージを募りました。来場した多くの方々からは、「神奈川から応 援しています」「再生と発展、子どもの夢が叶うよう祈っています」など福島への暖かいメッ セージが寄せられました。そして除染によって復興に向かう様子を伝える展示を、熱心に見て いました。

佐川印刷SCとの試合は、両者譲らず引分けでしたが、両チームサポーターが一体となり、大 きな声援をピッチに送りました。県内で避難生活を送るサポーターの女性は、「スタジアムに 来ると元気をもらえますね」と笑顔を見せました。

「サッカーを通じて、サポーターや地域の心をひとつにする貢献をしていきたい」という鈴 木氏の言葉のように、福島ユナイテッドFCの気迫溢れるゲームを通じて、サポーターの絆と、 復興への思いがより強まった一日となりました。

福を思 島通い



福島ユナイテッドFCの先発メン バー。地元と変わらない観客席 からの声に応え、力強いプレー を見せた。



福島へのメッセージを寄せる平 塚市の親子。「展示が福島の今 を知るきっかけに」と語る。